

おわりに

三浦拓也

このグループでは、当初各自が設定したテーマから共通性をなかなか見出せず、討議が滞ることがあった。そんな中、様々な場面で使われ、よく耳にする「地域活性化」という言葉について、そもそも「地域が活性化している状態」とはどのような状態なのか疑問を持った。地元住民がいきいきとしていること、外部の人々からみても魅力的なこと、地域経済が潤っていることなど色々な考えが思い浮かんだ。この曖昧な概念に対して、各々が自分なりに「地域が活性化している状態」を考え、グループ討議、現地調査を通し、向き合ってきた。

第1節では山内が、宮城県仙台市のもつ政令指定都市として東北地方では大都市でありながらも東京との関係は地方都市的だという性質に着目し、企業を対象に調査した。震災からの復興期でもある現在、これからの仙台市に必要なのは学生の新鮮な視点と企業のノウハウがつながりをもつことだとした。

第2節では三浦が、宮城県仙台市を拠点とするプロスポーツチームの地域密着活動を支える組織仙台プロスポーツネットを対象に調査した。スポーツチームは地域をつくる重要な存在となっており、より多くの人々が主体的にスポーツに関わることで地域が活性化していくと考えた。

第3節では渡辺が、山形県新庄市の活気を取り戻すために様々な活動を展開している団体AMPを対象に調査を行った。AMPだけでなく、地域住民の参加や全国とのつながりによって活動が活発になっていることをまとめた。

第4節では高橋が、新潟県佐渡市の活性化に関して、行政、企業、市民、三つの立場から考察した。「地域活性化」という言葉ひとつとっても、目的や目指すべき終着点は異なり、それぞれの特性を生かした活動を全うすることが大切だと論じた。

第5節では佐藤が、「都市再生プロジェクト」に選ばれたことをきっかけに事業の一環として水辺のオープンカフェを行っている広島県広島市に焦点を当て、栃木県の身近なカフェと比較することで、本当にカフェで地域を活性化することは可能なのか検証した。

共通して言えることは、「地域活性化」は地域をよりよくしたいという人々の強い思い、積極的な行動で生まれるということである。地域には様々な主体が存在し、それぞれ立場、目指すゴールは異なる。だが各主体を構成しているのは「人」であり、人と人との有機的なつながりが、豊かな地域を創り上げるのであろう。

グループ討議を通して、ある地域が行っている取り組みを他地域で活用、応用したり、複数の地域が共同して活動を行ったりすることの可能性を見出すことができた。既存のつながりから生まれたものを継続し、強固にするだけでなく、新たなつながりを形成していくことで、地域はさらに活性化していくだろう。